

一般社団法人 がん統計センター

一般社団法人 がん統計センター 代表理事
片山 博昭

一般社団法人がん統計センターという名称も会員の皆様の中に定着してきたのではないのでしょうか。設立が2011年6月ですので、丸2年が経過しました。前身のKATTANのときからですと既に3年以上が経過しました。

がん統計センターの設立時の目的ですが、①がん統計情報等を解析し、県における総合的かつ効果的ながん対策を提言、②地域がん登録、院内がん登録等に関するデータベースシステムの開発、保守を行い、更にごん登録全般に関するユーザーからの問い合わせに回答、③がん登録に関する情報を発信したい県や組織に対して、ホームページ等による広報手段を提供する。これらの活動を通して、県における地域がん登録事業を円滑に促進させ、蓄積されたがん情報が本当に県民のために生かさせるような体制をサポートする。その結果として、一般市民の健康と福祉の増進に寄与する、というものです。

こう書くと何だか難しいことを言うところだなあ、と思われるかもしれませんが、要するに、地域がん登録事業で得られたデータを大いに活用しましょう、ということをも最終目標にしているということです。現在の地域がん登録標準データベースシステムは元々、第三次対がん祖父江班で検討された内容を元に放射線影響研究所情報技術部でプログラミングし全国に広めていった経緯があります。現在、この地域がん登録標準データベースシステムは国立がん研究センターからの保守委託契約によってがん統計センターが全国の保守を行っているわけですが、全く放射線影響研究所と縁が切れたわけではなく、常に情報の授受、技術指導や検証などを双方で行っています。データを取り扱うことにはとても神経質になります。データが間違いなく入力されるか、間違いなく処理されているか、確実にバックアップが取れているかなど、どれ一つをとってもデータを扱うシステムとして極めて大事な事ですので必ず双方で確認をするようにしています。これまでに、開発したシステムには地域がん登録標準データベースシステムとデータの授受がシームレスにできるように開発した院内がん登録システム(CCHospital)、住基ネットを活用した生存確認調査システム(CC Vital)、地域がん登録データをWeb上で動的に集計して表示するシステム(CCInfo)、生存率計算ソフト(CC Survival)などがあります。CCはCancer Control(がん対策)の意味で、がん統計センターの英略はCCStatですが、これはCenter for Cancer Statisticsの略です。



がん統計センターの所在地は広島市中区八丁堀です。広島市の中心地の近くににあります。1階南口には広島風お好み焼きで有名なXXちゃん(宣伝になりますから店名は伏せますが、いつも入り口には沢山の観光客で行列ができています)があり、北口には広島カープの場外グッズ販売所があります。残念なことに広島カープの勝率が悪いので閑古鳥が鳴いています。そのビルの5階にセキュリティロックシステムに守られたがん統計センターがあります。中では、5名の職員が夜遅くまで働いていますし、サーバーームは別なセキュリティロックシステムで守られています。お隣は弁護士事務所。お世話にならないようにしましょう。

さて、がん登録法が今年度中に採択される、いや来年度だ、などと騒がれていますが、がん登録法が成立した場合に、どのように体制が変わるのかは全くの未知数です。現在の地域がん登録の枠組みは大きくは変わらないかと思うのですが、がん統計センターが保守を行えなくなったら、さあどうなるのだろう?法人の閉鎖?困る県が沢山出るのだろうか?いや、あまり影響なく登録業務はいくかも?なんて妄想が尽きない毎日です。でも、できれば今後も皆さんと一緒に歩んで行ければいいですね。